

発
刊
の
辞

発刊の辞



鳴沢村長 小林孝敏

先年の『鳴沢村誌』発行を受け、その後たゆみなく続けられてきた資料編編集がようやく終わり、ここに第三巻として発刊されることになりました。

村誌の企画以来十余年にわたりご尽力頂きました執筆の諸先生、長い間貴重な資料をお貸し下さった所蔵の各位、「秋元家甲州郡内治績考」の原本全文を初めて公刊の本巻にのせることをご了承くださった群馬県館林図書館、村議会はじめ村内協力者各位、編集制作のサンニチ印刷の皆さまに対し心から厚くお礼申し上げます。

目まぐるしく変わる世界・日本の中で、私たちの鳴沢村もまた変ぼう著しいものがあり

ます。

そうした中で、高冷地の村に住み、今日までを築いて来た先人の業績・変遷を省み、記録として残すことは、足もと・足場を確立して新事態に対応するため、是非しておかなければならないことと信じます。しかしこの事たるや、企画してすぐ成ることではありませんでしたので思わぬ日時を要しました。

幸い関係各位のご好意により多くの資料に恵まれ、なるべく削除、省略を避け、重複をいとわぬ収録をいたしましたので膨大にはなりませんが、反面今後の研究に資するところ大なるものがあろうかと存じます。

先々月の阪神大地震は地球内部長年月の変動の予測し難い恐ろしさを知らされましたが、千百年余昔の青木ヶ原溶岩流は私たちの村の長尾山噴火によるものだったことを想起しますと、自然科学の方面の資料の蓄積もわが村の今後の課題であらうかと思われます。

こうして人文・自然にわたる均衡の中で発展してゆく鳴沢村を目指すとき、その有力な一里塚たる村誌第三巻発行の意義はまことに大なるものがあります。

村民各位のご利用ご活用、また広く社会一般のご活用をお祈りして発刊の辞といたします。

平成七年三月